

## 岩代 一宏 議員



**本村の農業をはじめとした、商・工・観光業の具体的な活性化策は？**

**Q** 「生まれて良かった」「住んで良かった」といわれる南阿蘇に！ 言うのは簡単だが具体的な戦略はあるのか？

**A** **村長** 特に、農業の振興に関しては差別化ということを意識しながら、有機栽培に村全体で取り組む。今考えているのは村内で良質の有機堆肥を生産し、それを使用することで安心、安全、そしておいしいというイメージを確立させたい。

他の産業についても共通していえることは、差別化をどうつけるか、九州新幹線の全線開業までに周知を集め具体策を打ち出したい。個々の満足度はそれぞれに違うと思うが、最低限の満足度の充実を図るためにも、行政の底上げを図る。

## 下田 新喜 議員



**国からの特別交付金の使途について**

**Q** 長野村長の公約にあるように、農業生産のブランド化並びに3村合併前に地域住民からの要望、また建設・建築等の凍結状態にある問題が多々あると思うが、この度の特別交付金で少しは緩和するのだろうか、村長の意見を問う。

**A** **村長** 平成20年3月に国の緊急経済対策、あるいは雇用対策という事で3億少しの金が村に交付されており、そのうち9100万円を基金に積み立て、その残額2億1千万円の事業補正をさせていただいた。

そしてまた、今度の6月の21年度の補正において、5億円弱の補正を行った。更に、国の2次補正が確定しており、これにより4億円を少し超える交付金が村に流れて来るという事になる。

去年からすると、それらの3億円分、そして新しい4億分、それに一般的な起債を合わせると大体9億円以上の事業ができることになると思う。

したがって、早期にやるべき事業については次の補正あたりで一段落できるという状況である。また国の方針としても経済の活性化と雇用の確保という目的の中での交付金という事でもあるので、その事を十分頭に入れて、村としても健全財政、これを一番としながらも弾力的な運用をして国に併せて地域の経済を活性化させる予算にしたいと考えている。

道幅が狭く、見通しも悪い踏み切り。安全に通れるよう、改良が望まれる。



特産品  
場外ホームラン  
メロン

